2013事業報告

事業計画	報告と評価
[2013年度計画概要] 「キリストがすべてであり、すべてのうちにおられる」（コロサイ3:11）をモットーとする本学は、「教会のかしら」であり、かつ「いっさいのものの上に立つかしら」（エペソ1:22）であるキリストのご主権を教育の土台に据えるキリスト教大学である。本学は、このキリスト中心の福音主義神学に立って、キリスト教世界観、すなわちキリストのご主権を全世界に福音をもって知らしめる働き人を21世紀のグローバルな教会と社会に送り出し、教会の世界宣教に貢献することを使命としている。 2013年度は中期計画（2013-17年度）の初年度となる。中期計画には、「グローバル化し少子高齢化する教会と社会に仕えるキリスト者を養成する本学の特徴（少人数教育、グローバル性を意識した教育、明確な教育目標）をさらに際立たせ、（中略）継続的な定員充足ならびに発展を図り、資金収支の均衡はもとより、安定した帰属収支の均衡達成を目指す。」と5年間をかけての目標が掲げられている。そして、その達成のために、7つの施策が設けられた。 2013年度予算編成方針により、教育研究キャッシュフロー均衡はもとより、資金収支均衡を達成する。特に、国際キリスト教福祉学科の周知徹底と教育の充実によって定員充足を図り、寄付金1億円の収入を達成しなければならない。 以上を踏まえて、次のとおり具体策を実施する。	
（1）継続的な諸教会訪問による国際キリスト教福祉学科の周知と、特に、沖縄、関西地域への学生募集と韓国人留学生への働きかけの強化。hi-b.a.との協定締結。	本年度、本学では諸教会訪問を継続し、国際キリスト教福祉学専攻では、15名（入学定員16名）の新入生を迎えることができた。沖縄からは入学者２名、編入学者1名、関西方面からは入学者1名、編入学者1名を迎えた。他方、神学科は入学者14名（入学定員17名）と課題を残した。hi-b.a.とは、協定を締結し、オープンキャンパスへの組織的な参加が実施された。韓国人留学生に関しては、教会教職専攻に4名が編入学した。
（2）国際キリスト教学専攻のカリキュラム改正（英語力強化のため“Big English Program”開始、英語語学研修の長期化）と国際キリスト教福祉学科の定員管理の検討。	国際キリスト教学専攻に英語強化のためのBig English Programを開始し、フリンダース大学（豪、アデレード）への2年次学生の派遣（14年度秋学期開始）への準備を始めた。学生募集も順調で入学者10名を迎え、定員増への基礎を据えることができた。
（3）理事長専任化に伴う教会・同窓生・企業への支援者拡大のためのリーダーシップと事務局長を中心とした支援会事務体制の強化。地区支援会の立ち上げ（新潟、北海道）と新規開拓（石川、海外等）。	専任の理事長を迎え、支援会支援や設立のための教会訪問を数多く実施し、新潟、北海道に地区支援会を立ち上げ、石川、福島、静岡などで設置準備を進めた。結果として、寄付金総額の着実な増加をもたらした。
（4）大学院神学研究科神学専攻「博士後期課程」の文部科学省への設置申請。	大学院神学研究科に「博士後期課程」設置の認可を受けた。
1　学長室	
（1）チャペル ①　学生たちが、チャペルを大学生活の根幹として、霊性を養う場とするよう、積極的な出席を励ます。 ②　礼拝の本質を保ちつつ、今の時代と多様性のある本学の文化に合ったチャペルの形を追求する。	①　学生のリードによるコンテポラリーな賛美の導入や留学生によるチャペルを行う「チャレンジチャペル」を13回行い、多様なスタイルの礼拝の実施と学生の能動的な出席を促した。 ②　国庫補助金を用いた新しい音響設備と映像設備を導入した。これにより、音響が改良され、様々な賛美の形態、映像資料の提示が可能となった。 新しい形態のチャペルの実施により、建学の精神を伝え、霊性の涵養に貢献している。 新しい設備を活用して今後更にチャペルプログラムの充実に取り組む必要がある。また、チャペルの充実に向けて、学長のチャペル業務支援体制の整備に取り組む。

事業計画	報告と評価
(2) 教育行政 ①　学内各部署および大学全体のPDCAサイクルを確立するため、体制整備と意識浸透の促進をはかる。 ②　教育行政にかかわる文部科学省等の動向を確認して対応するとともに、補助金関係の変更へ対応し、申請作業の統括をする。 ③　外部研究資金の獲得のために努力する。	①自己点検･自己評価委員会において、PDCAサイクルの体制・年間スケジュール等の検証・改善を行うとともに、同委員会内にワーキンググループを立ち上げ、中期計画の行動目標の達成度を測る「評価指標」の策定を進めた。 また次期第三者評価に向けての準備作業を行った。 ② 特に、今年度から始まった「私立大学改革総合支援事業」について申請を行い、タイプ1「建学の精神を生かした大学教育の質向上」に選定された。現状の本学の教育･研究の取り組みを総合的に検証する契機にもなり、次年度以降にも活かしていく。 ③ ・科学研究費助成事業で、本年度2件の研究課題の受け入れがあった（いずれも継続課題）。 ・平成26年度科学研究費助成事業に5件の申請があり（うち1件は他機関からの申請への参加）2件が採択となった（本学よりの申請1件、他機関からの申請1件）。 ・附属研究所より米国John Templeton Foundationに申請した“Science for Ministry in Japan: The Theory and Practice of Christian Ministry in the Face of Natural Disasters”が採択された（研究期間：2014年4月-2016年12月）
(3) 海外協定校 ①　短期留学生〔East Asia Institute（EAI）〕の募集活動を継続する。北米以外の大学との協定を目指す。	短期留学生募集のため教員を北米に派遣し、各大学での説明会などを行った。 募集活動が実を結び、今年度は例年の倍以上の短期留学生を受け入れることができた。また、既に協定を結んでいる各校に加え新たに3校と協定を締結し、順調に協定大学の増加を実現している。 北米以外、特にアジアの大学との協定について、本学との適合性などについて調査し、開拓する必要がある。
(4) 加盟国際団体 ①　本学の加盟する国際団体が主催する会合や研修会に教員を派遣する。	アジア神学協議会（ATA）総会に教員を2名派遣した（日程：8/12-16 於：ジャカルタ東南アジア宣教聖書神学校）。 IAPCHE機関誌に短期留学プログラムの記事を掲載するなど、ネットワークを活用することができた。 加盟団体の活動は本学の目標達成に寄与している。

事業計画	報告と評価
(5) 学生募集 ①　様々な分野でのhi-b.a.との協力関係を深める。（宿泊型オープンキャンパスの合同実施 等） ②　支援会教会訪問と連携し、効率的に教会訪問を行う。	①　2013年4月18日にhi-b.a.とTCUとの協力協定を締結した。宿泊型オープンキャンパスをhi-b.a.と合同で5月10日(金)～11日(土)に実施し、hi-b.a.から5名の高校生が参加した。全体では、13名の宿泊型オープンキャンパスの参加者があった。また11月4日(祝月)にhi-b.a.スポーツ大会にTCUが会場提供をし、高校生6名、hi-b.a.関係者9名の合計15名が参加した。参加者にTCUチラシを配布したり、TCU教員によるメッセージを行った。さらにhi-b.a.の関東で行われている定期集会4つに職員とTCU生による訪問も行った。ユースミニストリー受講生の中で優秀な学生1名に対して、hi-b.a.の定期集会(船橋)へインターンの交通費補助を行った。これら様々な活動によりhi-b.a.との協力関係を深めることができた。 ②　支援会の教会訪問で得た中高生の多い教会や福祉に関心のある教会についての情報を元に、職員による教会訪問（3教会）・教員による訪問・講演（11教会）の合計14教会を訪問した。今までの教会訪問に加え、学生募集効果の高い教会に訪問をすることができるようになった。またキャンプ訪問、チャーチスクール訪問、福祉学生募集において各地区支援会の先生方に協力を依頼した。沖縄地区の先生がOCに高校生を引率して参加し、今後のモデルケースとなった。
(6) 広報 ①　キリスト教媒体を通じた広報展開の拡充。 ②　Webサイトの改良を図る。特に、英語広報の充実を図る。 ③　卒業生・支援者・教会のデータベースの一元管理準備。	①春学期に福祉専攻広告を中心に広告を掲載した。 ②若年層のスマートホン普及率が上昇したことから、ウェブサイトをスマートホン対応にした。海外の支援者の協力を得て英語の募金サイトを開設した。 ③学生募集・支援会において一元管理の必要性が増しており、2014年度に実施できるよう準備を進めた。

事業計画	報告と評価
（7）募金・支援会 ①　新規地区支援会を立ち上げ、支援基盤の強化を図る。 ②　積極的に地区支援会や教会を訪問し、関係強化を図る。 ③　海外へのPRを強化する。 ④　支援会報やオープンデイを通し、TCUや募金への理解、意識のアップを図る。	［寄付金実績］明日の世界宣教者育成募金5,178万円 内訳： 大学献金 4,568万 大学院設立献金　188万 夏期伝道献金 140万 教会音楽献金 64万 留学生奨学金基金 99万 教会教職者志望学生奨学金基金 119万 ①－④推進のため以下を実施した。 ・支援センター会議を９回開催した（4/17、5/22、7/10、9/18、10/23、11/20、1/22、2/20、3/18）。 ・新潟、北海道地区を新規で立ち上げ、支援会は全国で10地区となった。現在、福島、北陸地区などで立ち上げ準備中である。 ・愛知･岐阜、福岡･山口、岡山、沖縄、関西、関東で「TCUのつどい」（地区学園デー）、および祈りのコンサートを計7回開催した。 ・大学報内支援会ページの作成(4、7、12の3回) ・寄付金の年度集計及び礼状の作成(4月) ・入会案内の発送(4月) ・入会礼状・領収書の発送(随時) ・夏期特別献金のお願い(7月) ・冬期特別献金のお願い(12月) ・特定公益増進法人への税制優遇措置案内(1月) ・教会訪問82件(うち教員の派遣は34件) ・諸団体への訪問 ・TCU支援会報の作成（2014年7月発行に向けて準備中） ・海外募金システム、海外募金PRのホームページを作成 ・オープンデイの開催を検討 ・学内への啓発活動の実施

事業計画	報告と評価
2　神学部	
（1）学部全体 ①　グローバル化時代に対応して、全学生を対象に、異文化理解・異文化コミュニケーションの理論と実践の要素を加えた授業を行う。 ②　学生のアカデミック・ポートフォリオを導入し、総合的な成長を促す。 ③　授業外学修時間を充実させ、能動的授業参加を促すための授業改革をFD委員会と協力して進める。 ④　各科・専攻の定員充足を達成するとともに、特に教会教職およびアジア神学コースの自費学生の入学・編入学定員の拡大を目指す。 ⑤　協定校を中心に、短期留学生（EAI）10名の獲得を目指す。 ⑥　現代教会音楽に関する教育も充実させ、伝統的教会音楽との融合を図る。 ⑦　学科・専攻教員会議を定期的に開催することで、統合的な教育・学生指導を実現させる。 ⑧　教員間の教育研究上の交流を促す。	①　「国際キリスト教学入門」に加え、全学対象の「キリスト教世界観」にも異文化理解を学生相互に経験する要素を加えた。アクツのクラス「Intercultural Communication」でもグローバル教育を行った。 ②　学生ポートフォリオの導入・実施に合わせて「学修」と「生活」の自己評価書を一本化し、Web上で回答させ、次年度につなげられる形で実施した。 ③　教員研修会（8月28日）において「アクティブラーニング」に関するFD、また、ファカルティーフォーラム(3月14日）にて事業相互評価に関する事例研究を実施した。 ④　米国の退役軍人とその家族向けの奨学金受領の認定校となり、自費留学生を新たに1名（ACTS-ES)に獲得した。 ⑤　EAI生は春学期に4名、秋学期に13名の合計17名を獲得した。 ⑥　伝統的および今日的教会音楽の専門家を「教会音楽概論」担当の兼任教員として採用した。またファカルティーフォーラム（6月4日）でも取り扱い、意見交換をした。 ⑦　卒業前の学生アンケート・面談を実施し、ディプロマポリシーに基づく卒業判定の参考にするとともに、カリキュラム改善に資するデータとした。また、教員研修会、ファカルティーフォーラムに合わせて学科・専攻教員会議を開催した。 ⑧　ファカルティ―フォーラムを3回実施し、盛況であった。特にファカルティーフォーラムで「紀要合評会」を行い、活発な研究発表、応答、ディスカッションを行った。
（2）神学科 ①　神学科内に各専攻毎(アジア神学コース、神学専攻、教会教職)と神学科全体の教員会議を行う。 ②　各教員会議で、カリキュラムや各科目の内容を検討して全体のバランスや各分野の充実を図る。 ③　各学生の目的と能力に応じた段階的履修を指導する。	神学科全体の教員会議は8月のファカルティーフォーラムで実施された。 ①　教会教職課程の完成年度を迎えてカリキュラムの微調整を実施した。 ②　教会教職課程で、聖書言語について、習得が得意でない学生に対し、より丁寧な指導を施すこと等、位置付けを再検討した。 ③　アジア神学コースに日英バイリンガルな学生を受け入れる体制作りとして春学期および冬学期入学に対応した。③については、「指導する」ことはまだでも、カリキュラムなど基本「各学生の目的と能力に応じた段階的履修」は達成できている。
（3）国際キリスト教福祉学科 国内外の自然災害や国際関係の困難さを通して人々が生きている現場を知り、他者への共感能力を育成する。ボランティア・スピリットと隣人愛に富んだワーカー育成のための人格教育に特に力を入れていく。志ある学生の募集に力を注ぎ、諸教団・教会、キャンプ、修養会等を訪問して学科の特徴をアピールしていく。カリキュラムは引き続き時代に即したものを検討する。	学科の性格としての国内外での奉仕の精神の涵養については十分に達成された。カリキュラムでは国際キリスト教学専攻とキリスト教福祉学専攻の双方で共通科目を増やすことも達成できた。

事業計画	報告と評価
[国際キリスト教学専攻] ①　2013年度入学生から適用する英語強化プログラム“Big English Program”の１年目を迎え、上級生や他専攻学生らにもこのプログラムの活用を促しながら英語教育強化を進める。 ②　専攻教員会議をより頻繁に開き国際キリスト教学専攻全体のカリキュラムの有機的連携を強め、学生の能力開発に一層取り組む。 ③　国際キリスト教学専攻生と教員との交わりをより活発化し、専攻のビジョンの共有を図る。	①　着実に実施中。２年次秋学期の英語研修先をオーストラリアに決定。同研修参加者に対して１０万円を上限とする補助実施を理事会に提案し承認を得た。冬学期にTOEIC準備クラスを行った。 ②　英語強化プログラムに続き、国キ専攻の神学科目について見直しを行っている。2014年度入学者から宣教学を必修にする微調整を実施した。 ③　春学期は専攻学生主催の国キ会を、秋学期は教員主催の国キお茶会、冬学期学生主催卒業生を送る会を実施。 2014年度入学者から宣教学を必修にする小規模な改正案を決定。より大幅な改正は次期のカリキュラム全体の見直しの際に行う予定。
[キリスト教福祉学専攻] ①　2014年度「医療的ケア」開講に向けたカリキュラムの検討・必要物品の整備を行う。 ②　具体的人材像の検討と資質習得のためのカリキュラム（授業科目）の検討を行う。 ③　実習機会が年2回（7～8月・3月）に限られるため、当該時期に受け入れ可能な障がい者支援施設と介護実習Ⅱが可能な施設を確保する。 ④　入学者を送り出してくれた教会の特徴・傾向を分析した上での教会訪問や新たな教会、キャンプ訪問、さらには出前講座や講演などにより周知されるようにする。 ⑤　2012年度開設されたキリスト教福祉学専攻特別奨学金を広く紹介し、外国人留学生を含む対象学生に応じた柔軟な貸与方法の検討を行う。 ⑥　ケアチャーチプロジェクトでのアンケート調査から教会のニーズを分析し、具体的な支援方法の検討やセミナー・勉強会を開催する。 ⑦　福祉現場で働く介護職員に対して、国家試験受験資格要件の「実務者研修（通信課程）」開設を検討する。	①　医療的ケアに関する必要物品も整い、授業内容も決定した。また開講時期は2014年度の3年時冬学期、4年時春学期に講義および演習を行うことに決定した。 ②　リーダーシップや、考え書く力を向上させるため、2014年度から卒業研究の必修化、投稿（小）論文の支援を行う方向で検討している。また、ディプロマポリシー達成のため、卒業時アンケートを1年時、2年時、3年時に提示し自己評価を行わせ、学生自身の成長の変化を確認していく方向で検討している。 ③　今年度は、介護実習Ⅱが可能なキリスト教関連の特別養護老人ホーム（草加キングスガーデン）1施設と一般特別養護老人ホーム（八千代城）が加わった。また、介護実習１ｃ関連の認知症対応型共同生活介護（福音の園・川越）1施設も加わった。このため、定員確保時の実習先は確保されている。 ④　出前講座や講演の依頼はすべて開催した。また、教会訪問も各教員に振ら分けられた件数をすべて行った。エクステンションに関しては、来年度から1地区（岡山県西大寺教会、2014～2015年にかけて5回開催）で開催できることとなった。 ⑤　キリスト教福祉学専攻特別奨学金は対象範囲を変更し在学生及び留学生にも拡大されることとなった。 ⑥　ケアチャーチプロジェクトに関するセミナーは今年度2回、東京中央教会で開催したが、まだ広報活動に留まっている。今後もしばらくはセミナーを行っていくが、具体的な支援方法や勉強会はまだ検討中である。 ⑦　実務者研修に関しては進展はしていない。
3　神学研究科	
①　大学院として最初の教会教職者を教会と社会に送り出す。 ②　博士課程の設置申請を行い2014年4月の開設をめざす。 ③　教会教職特別セミナーを継続し2012年度分はブックレットとして出版する。 ④　教員の業績の出版や活動を通しての社会貢献をめざす。 ⑤　他校との交流を図る。	①　17名のうち2名が長期履修となり15名が修了した。3名が進学、他は教会等に赴任した。 ②　博士後期課程の設置が認可された（入学定員2名）。 ③　教会教職特別セミナーは予定通り実施し、2冊のブックレットを出版した。 ④　教員は業績の出版や活動を通して社会貢献を行い、ポートフォリオで公表している。 ⑤　第3回東日本大震災国際神学シンポジウムの実施等、国内外の神学教育機関と交流・協力を行った。 修士課程が完成年度を迎えて最初の修了生を送り出し、博士後期課程を設置できたことは大きな成果であった。修士課程のさらなる充実と定員充足が課題である。

事業計画	報告と評価
4　教会音楽専攻科	
①　定員数に近い学生を迎え、授業の持ち方などの更なる工夫・改善を図る。 ②　教授会との連帯を密にして、神学と音楽の学びの統合を図る。 ③　学部の教会音楽教育と連携し、現代教会音楽に関する教育も充実させる。 ④　卒業後に教会の現場で仕えることのできる、実践的なノウハウの修得に力を注ぐ。 ⑤　研究生制度を検討・実施する。	①　今年度初めて2人の修了生を送り出した。2人とも非常に意欲的に学び、大きな成果を得て巣立っていった。1人は長期履修制度を利用し学びを継続する。 ②　教会音楽アドヴァイザーの働きにより、神学と音楽の学びの統合に向けて、教授会との意思疎通が図れ始めた。 ③　今日的な教会音楽に関する授業について、受講生からは特に違和感を持ったとの反応はなかった。むしろ新しい観点からの話は、新鮮だった、という反応があった。 ④　インターン制度を含むコンサートの裏側の作業を実際に体験することによって、実践的なノウハウをある程度身に付けることが出来た。 概ね達成されている。定員確保については、教会音楽アカデミーの行事等と連携して学生募集に努めたい。教会音楽の現場にふさわしい人材養成のための教育について、さらに専攻科委員会で検討したい。また、初めて丸一年の課程を経験し、細かいところでの修正・見直しが必要なことがわかった。それらを今後専攻科委員会で詰めていく。
5　教務部	
（1）教務 学部、各学科、各専攻、専攻科、研究科でかかげられている事業計画の遂行をサポートする。	学部、各学科、各専攻、専攻科、研究科の担当教職員が連携を取りつつ、かかげられている事業計画を遂行した。今後は、各科間の連携と同時に、大学全体の連携も意識して事業の遂行につとめたい。
（2）生涯学習 新規エクステンションの開拓。	滋賀県でのエクステンションを新規開拓した。1件のみであったが、年度中に翌年度の開拓準備もできた。
（3）入試 面接に関する見直しを行う。	面接に関する見直しを行い、2014年度入試からAO入試の面接時間を90分から60分に変更した。AO入試を終えて、面接時間60分で特に問題ないことを確認した。
（4）教員支援 ①　TA（ティーチング・アシスタント）制度の充実をはかり、RA（リサーチ・アシスタント）制度の整備を行う。 ②　ファカルティーディベロップメント委員会 a. ファカルティーフォーラムを年3回開催し、必要なFD活動を行う。 b. 新任教員研修プログラムを実施する。	(4)教員支援 ①　TA制度は2年目を迎え教員の利用も前年度に比べ増加した。RA制度は、規程を整備し、具体的な研究プロジェクトについて検討を行った。 ② a.　ファカルティーフォーラムを年3回実施し、教育改善、紀要合評会等教員に有益なFDとなった。 B.　2名の新任教員を迎え、年間を通じて学部長が研修を行った。教員ハンドブックも整備した（TCUオンライン）。
（5）教育情報 教育情報環境の充実と教員の利用推進。	moodleの更新にともなう新しいアンケートシステムの利用を検討したが、まだ新システムが不安定であるためmoodleの更新を保留した。そのため、旧アンケートシステムを利用して2014年度のバージョンアップを目指す。
（6）イスラエル・スタディツアー 2014年度ツアー実施に向けた計画立案を行う。	2015年春の次回ツアー開催に向けた準備を行った。
（7）紀要編集委員会 紀要『キリストと世界』を、本学全体の学術成果を広く外部に公表する媒体として、内容・装丁のリニューアルを行うことを検討する。	『キリストと世界』24号を刊行した。

事業計画	報告と評価
6　学生部	
（1）修学支援 ①　各種奨学金による学生への経済的な支援を行う。 ②　障がい学生の講義保障と生活支援を検討・実施する。 ③　ハラスメント防止の啓発に努める ④　前学期GPA1.80未満の学生を対象としたピアテュータリングによる学習支援を実施する。 ⑤　寮生活の自己評価書を、学生のアカデミック・ポートフォリオに関連づける。	①　学内、学外の奨学金を活用し、学生への経済的支援を行った。 ・学内は、入学前に決定する同窓生家族奨学金やキリスト教福祉学専攻特別奨学金、学内給付奨学金。学外は、上田メソッド奨学金、オンヌリ教会奨学金、日本学生支援機構の貸与奨学金には、第一種2人、第二種、学習奨励費がある。 ・教授会から求められていた報奨金的な奨学金として、2014年度から優秀学生奨学金を設け、成績優秀で課外活動を積極的に行っている学部生1名に給付することとした。従来からある奨学金もすべてが救済的な奨学金とならないよう検討が必要である。 ②　対象となる学生がいなかったため未実施。 ③　年度初めのオリエンテーションで全学に周知した。教会教職特別セミナーで外部講師による講義が一度行われた。 ④　春学期7名、秋学期3名の学生に、週1回1時間のピアテュータリングによる学習支援を実施した。冬学期は6名の学生にピアテュータリングによる学習支援を実施した。1年を通じて、テュータリングを受けた学期に成績が向上した学生が複数おり、ピアテュータリングの成果があがっている。ピアテュータリングの対象外であるが、3年次編入生やシニアコースの学生で学業不振の学生が多いことが課題である。 ⑤　寮生活の自己評価書を学修ポートフォリオに合わせてTCUオンラインで実施した。寮生は長い文章での回答がしやすくなり、数字データ入力、書類保管の事務が軽減された。データの有効活用の検討と入力項目の若干の修正が必要である。
（2）健康・生活支援 ①　学生の心と身体の健康のために必要な支援を行う。 ②　寮生活への支援と指導を充実させる。 ③　安全な学生生活のために支援を行う。	①定期健康診断を4月4日に実施。定期的な健康相談（学期2回）と学生相談（学期10回）の機会を設け，学生が気軽に相談できる体制を継続している。今年度は外部カウンセラー1名（例年は2名のうち1名産休）で勤務時間が短かったこともあり、年間20日の稼動、面接延べ人数43名であった。次年度は2名の外部カウンセラーを確保することが望ましい。 男女子寮には富士薬品の常備薬を配備し，夜でも応急的に対応できるようにしている。 ②週に一度寮長と副寮長とミーティングを行い、寮の自主的運営をサポートしている。また必要に応じて個別面談を行い寮生の全人的な成長を促すための指導を行っている。 ③公用車の安全運転講習や留学生対象の防災訓練、寮運営委員を対象としたAEDを使った心肺蘇生法の訓練、独身寮の浴槽水質検査を継続実施した。

事業計画	報告と評価
(3) キャリア支援 ①　早期からのキャリア形成支援の充実。 ②　本学のディグリーポリシーに沿った社会的・職業的自立を推進するための具体的施策の検討。	①　キャリア教育を1年次必修科目として実施し、23名が受講した（秋学期全10回：９月５日～１１月１４日までの毎週木曜）。教職員の講義以外に社会の様々な現場で活躍されているクリスチャンの企業人を講師として迎えるなどし、具体的に学生の職業観を養えることができた。 「社会人基礎力　5点満点」　プレ調査 3.32→ポスト調査 3.37 「CDMSE（進路選択自己効力感）5点満点」　プレ調査 3.63→ポスト調査 3.72 ② ・各就職支援講座（面接対策講座、SPI対策講座等）を充実させ、3月卒業者の就職内定率は94.4%、進路決定率は91.8%と高い水準を維持することができた。 ・インターンシップを選択科目として実施し、5名の学生が実習に取り組んだ。 「社会人基礎力　5点満点」　プレ調査 3.47→ポスト調査 3.49
7　総務部	
(1) 総務課 ①　加盟団体等のネットワークを情報交換などの機会として積極的に活用する。 ②　職員の評価制度を実施と、実質化のための研修等を行う。 ③　同窓会との連携強化、および支援会活動との連携を視野に入れた同窓生との交流の活発化を図る。	①　従前どおり、各加盟団体の会議・研修会等に参加している。理事長が専任理事となり、各種会議等に積極的に参加し、本学園のアピールに努めている。 ②　評価制度の具体案の検討は進んでいない。研修は行われていない。 ③　卒業生交流委員会に理事長が適宜出席し、学園・支援会と卒業生との連携を図っている。 おおむね例年同様の進捗である。②については具体的な進捗が無いが、2013年度に実施した「組織活性度調査」により、本学職員の意識等における課題等も明らかとなり、それを踏まえ、計画の見直しも含め、「構成員のやる気を引き出し、組織の目的を達成するにふさわしい人事制度」の実現を目指す。
(2) 管財関係 ①　大規模修繕としてチャペル外壁防水塗装、食堂テラス塗装を実施。	①　食堂テラス塗装を実施した。チャペル外壁防水塗装は、チャペル全体の修繕とあわせて2014年度以降に実施することとなったため、2013年度は実施を見合わせた。 おおむね計画に沿って実施している。実施にあたっても予算対経費の節減を心がけている。
②　情報ネットワーク関係 ・グループウェアの移行・研修を行う。 ・ファイルサーバーの移行を検討する。 ・無線LAN環境の調査及び設計を実施。	・9月末に研修を行い、10/1にグループウェアを移行した。移行後も大きなトラブルなく、これまで通りグループウェアを利用している。 ・8/23にファイルサーバーを移行した。 移行後ファイルサーバーの共有が解除されるなどのトラブルが発生したが、周辺機器に原因があることをつきとめ現在は安定して稼動している。 ・アクセスポイントがフリーズすることが頻繁に生じていたが、12月にアクセスポイントのキャッシュの設定を見直してから、アクセスポイントが利用できないという学生からの報告がなくなった。現在は安定して稼動している。

事業計画	報告と評価
8　図書館	
①　機関リポジトリの構築、JAIRO Cloud（NII）への参加、大学院資料の更なる整備を実施する。 ②　学生への学習支援、情報リテラシーサービスの強化、HPの充実を図る。 ③　電子ジャーナル・オンラインデータベース、情報リテラシー授業の充実、ラーニングコモンズ設置について検討を行う。	本年度の貸出冊数：9054冊 ①　機関リポジトリへの取り組みを行い、Jairo Cloudシステムを通して学内成果物情報発信の一歩を踏み出した。今後、さらに、機関リポジトリの学内理解推進、コンテンツの増加を図りたい。それら国立情報学研究所の諸システムを活用した当大学図書館の諸サービスの基盤整備を推進した。 ②－③　教育支援では、特に、初年次教育の授業において、館員がクラスを担当し、「情報リテラシー」についての授業を行った。館内設備では、図書館で一日、自学自習できるよう休憩室の整備を行った。 ③　蔵書の重点的補充を行い、留学生、大学院生用専門資料、英語多読教育について量・質的に充実した。 ④　社会貢献は、大学祭において、NHK大河ドラマで、社会的に関心の高まった新島襄と八重について企画展「八重の桜」とミニ講演会を実施し、地域住民に好評を博した。

事業計画	報告と評価
9　附属研究所	
（1）共立基督教研究所 外部資金（寄付金、助成金）の導入を図りつつ、公共福祉を柱とした活動の継続と充実を図る。	①　John Templeton Foundationに研究助成プロジェクトScience for Ministry in Japan: The Theory and Practice of Christian Ministry in the Face of Natural Disastersに申請し、採択された（主催：共立基督教研究所、国際宣教センター、期間：2014年4月－2016年12月、助成額：$196,261）。 ②　キリスト教（創発）民主主義研究会（当研究所主催、1回開催）、「公共福祉研究会・東京」（市民有志、8回開催）「『教会と地域福祉」フォーラム21」（キリスト新聞社）等、外部団体と連携した研究活動を行った。 外部資金導入、公共福祉を柱とした概ね計画を達成している。本年度は当研究所主催の活動が少なかったが、助成採択を機に次年度に充実をはかっていく。
（2）教会音楽アカデミー ①　コンテンポラリーの賛美をプログラム化する。 ②　前奏曲の創作を継続する。	①　このテーマを夏期教会音楽講習会でクラシック中心の受講生たちとシェアし、好評を得た。 ②　新たに多くの礼拝前奏曲作品が創作され、夏期教会音楽講習会に合わせ、33曲を収録した『楽譜集Ⅲ』を発行した。
（3）国際宣教センター（Faith and Culture Center） ①　専門部会および世界宣教講座における教育、研究の充実。 ②　キリスト教各教団・教派の宣教研究機関、市民団体等との連携の推進。 ③　教会や地域への貢献としての施設貸出し業務を促進。	①　世界宣教講座、研究会、セミナーなどは予定通り行った。 ②　他の機関との連携や施設貸出しの促進は、それほど行うことが出来なかった。